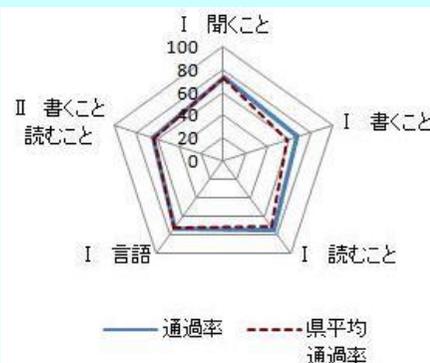
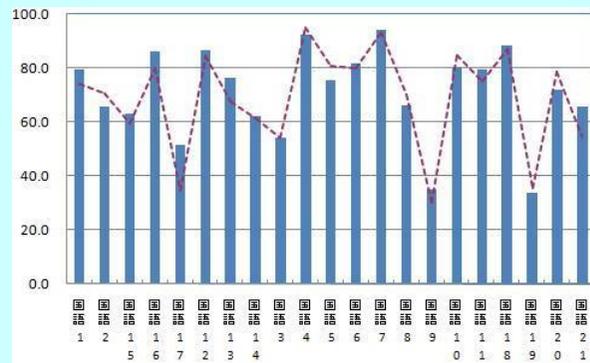


## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校71.0%, 県69.2%)

領域別平均通過率



設問Iの平均通過率



## 本年度の結果について

○全体的な傾向  
 本年度タイプIは71%、タイプIIは65.0%の通過率であった。タイプIの中で特に課題として挙げられるのは「書くこと」の領域(通過率 66.9%)であり、タイプIIでも「書くこと」の領域(65.0%)に課題がある。

○昨年度の課題の取組結果  
 昨年度は、「書くこと」の領域を課題として、基本的な文の組み立ての反復練習を通して「文の成分」の理解の定着に取り組んだ。また、模範解答と自分の文章を比較させ、間違いや不足部分に注意して書き直させる活動を行った。その結果、タイプI・IIともに通過率の向上が見られた。

### 重点課題

#### 【課題1】

文章の内容を適切に読み取り、叙述の仕方を理解して文を書きなおすことに課題がある。問題の意味を正しく読み取っていない生徒が45.1%であり、無答率は3.3%である。

#### 【課題2】

複数の資料から必要な情報を適切に抜き出し、具体例を挙げながら説明することに課題がある。情報を正しく読み取っていない生徒が59.8%であり、無答率は6.6%である。

### 重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

#### 【課題1】

文章の読み取りの中で、文の組み立てを意識した問いかけを意図的に仕組んでいくことで、問いの中で指示された叙述の仕方を意識しながら文章を書く力を身に付けさせる。さらに、叙述の条件を変えながら、類似した問題に計画的に取り組ませる。  
 ※30.0%未満の生徒に対しては、基本的な文法事項を再度確認し、確実な定着を図る。

#### 【課題2】

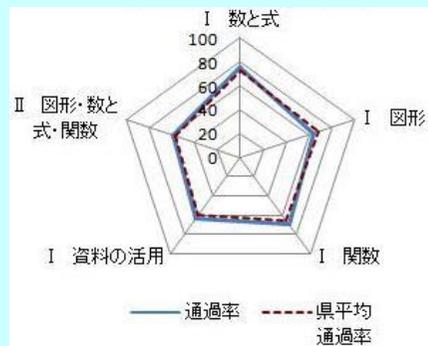
授業の中で、一つの資料だけではなく複数の資料を提示し、そこから得た情報を関連付けたり再構成したりするように指導を行う。また、情報を集めて文章を書く際には、文の構成や書く順序が適切かどうかグループで確かめ合い、助言をし合うなどの学習活動を設定する。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2学年 学期末試験			1・2学年 学期末試験	
目標値			65%			75%	
実施後数値							

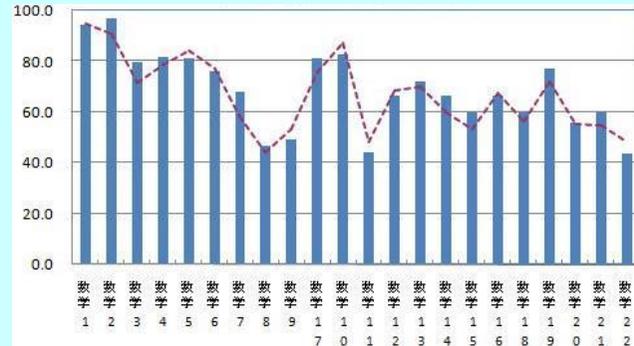
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2学年 学期末試験			1・2学年 学期末試験	
目標値			60%			70%	
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校68.6%, 県66.9%)

領域別平均通過率



領域別平均通過率



## 本年度の結果について

### ○全体的な傾向

数学の結果において、タイプⅠは71.4%、タイプⅡは59.2%の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容については概ね定着していると考えられるが、一方で学習した知識・技能を実生活や学習の様々な場面に活用する力が不十分であることが課題である。

### ○昨年度の課題への取組の結果

昨年度は、2「文字式の表し方」の問題に課題が見られた(通過率:(1)41.7% (2)30.0%)。また、記述する問題の通過率は、領域を問わず低い傾向があった。そこで、授業及び定期テストにおいて、根拠を示して説明を記述させる取組を行った。その結果として、2「文字式の表し方」の問題では通過率が68.0%(県平均は58.5%)に上がった。しかし、記述面では、無答率は減少したが、通過率は低く、依然として大きな課題がある。

## 重点課題

### 【課題1】

図形の領域に課題がある。タイプⅠにおけるすべての図形問題の通過率が県平均を下回っている。特に円錐と円柱の体積の関係の問題では、 $600\text{ cm}^3$ という誤答が21.3%あり、円錐と球の体積の関係と混同したものとされる。また、その他の解答、無答は合わせて26.3%であった。(通過率44.3%)

### 【課題2】

問題を解決する方法を数学的に説明する問題に課題がある。全設問中、最も通過率が低く(43.4%)、最も無答率が高い(11.5%)。

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)

### 【課題1】

図形の問題を考えさせる際は、できるだけ具体物を用いたり、実験させたりして求め方を考えさせてまとめた後、適用問題で定着を図る。

通過率30%未満の生徒に対しては、公式等についての口問口答を繰り返すことにより、覚えたことを確認し、定期試験発表期間の放課後に補充学習を実施して、基本的な問題をやり切らせる。

### 【課題2】

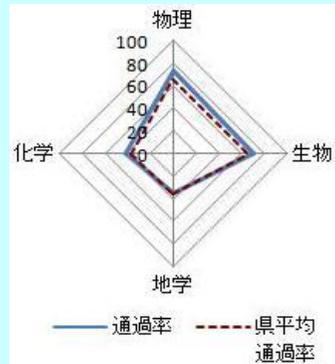
問題解決の学習過程において、まず生徒に自分の考えをノートにまとめ、表現させ、書けない生徒への助言により、自信を持ってグループ活動に臨むよう図る。更にグループ活動の中では教え合う場を設定して分からない生徒の理解を図り、仲間とかわり合いながら、自分の考えを深めたり、仲間の考えのよさを学び合ったりして、新たな見方や考え方、処理の仕方を実感的に獲得させる指導をしていく。

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2年生 H28「基礎・基本」	1年生 テスト	1・2年生 学年末テスト	1年生 H29「基礎・基本」
目標値				60.0%	65.0%	70.0%	70.0%
実施後数値							

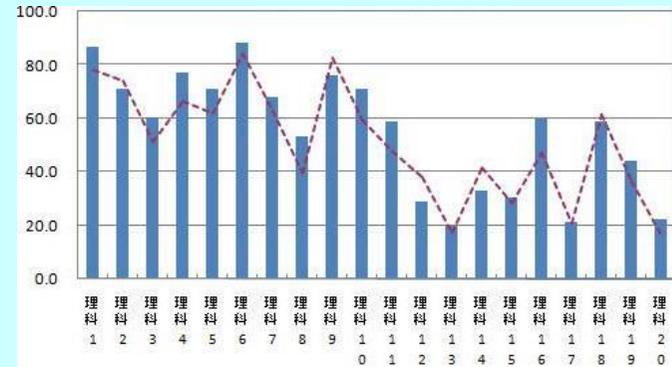
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				1・2年生 期末テスト	2年生 課題テスト	1・2年生 学年末テスト	2年生 H29 全国学力
目標値				60.0%	65.0%	70.0%	70.0%
実施後数値							

## 「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校55.1%, 県50.8%)

領域別平均通過率



設問1,2の平均通過率



## 本年度の結果について

### ○全体的な傾向

理科の結果において、タイプⅠは58.9%、タイプⅡは49.4%の通過率となっている。領域別にみると、タイプⅠの通過率が物理分野で74.9%、生物分野で78.7%であり、基礎的・基本的な内容については概ね定着が図られていると考えられるが、地学分野では40.2%、化学分野で41.8%と課題が見られる。タイプⅡにおいても、物理分野で71.3%となっているが地学分野では25.0%と課題が大きい。

### ○昨年度の課題への取り組みの成果

昨年度は物理分野において領域別通過率が低かったため、反復練習や確認テスト、定期試験で定着の確認を行い改善が見られた。文章の中から必要な用語を読み取る力をつけることにも取り組んだが、岩石の同定に必要な条件を見つける問題や、地層の傾きを読み取る問題の通過率が低く課題がある。

## 重点課題

### 【課題1】

地学領域（理科13）の砂岩と判断する根拠を選ぶ問題で、複数（3つ）ある選択肢の中から適切なものを必要な数選ぶ力が弱い。（通過率19.7%）

### 【課題2】

化学領域（理科20）の状態変化のグラフを問う問題で、物質の量を半分にしたとき、融点が変わらないことは理解しているが、加熱に要する時間が半分になることを正しく説明できていない。（通過率22.1%）

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

### 【課題1】

地学分野では、本問題以外にも鉱物の名称を答える問題や示準化石などの用語を答える問題においても通過率が、低い。基本的な用語の理解を十分に身に付けさせるため、単元ごとに学習内容の振り返りができるワークシートを作成し、反復練習を行う。

### 【課題2】

表やグラフからわかることを記述する力をつける。エタノールの沸点やパルミチン酸融点を求める実験では、薬品の量を変えることにより複数の表やグラフを比較させ、違いや共通点を自分の言葉で述べるようにしていく。

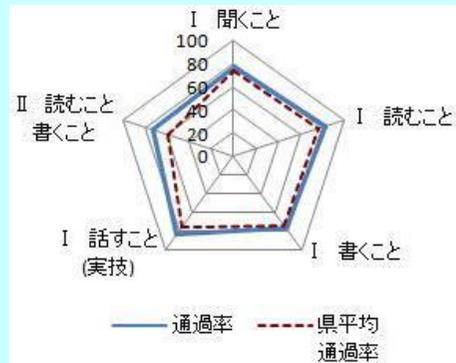
【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2学年 H29「基礎・基本」	1学年 単元末テスト	1・2学年 学年末試験	1学年 H29[基礎・基本]
目標値				60%	75%	70%	60%
実施後数値							

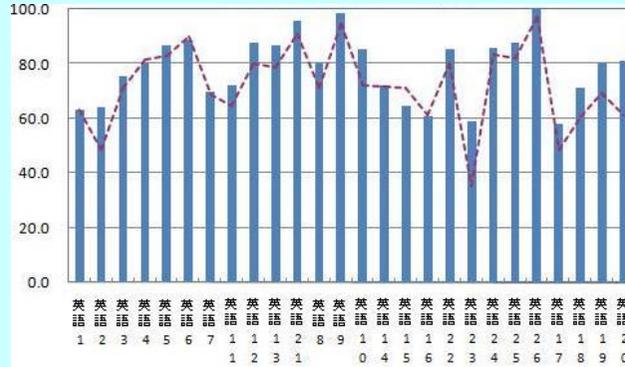
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法				2学年 H29「基礎・基本」	1学年 単元末テスト	1・2学年 学年末試験	1学年 H29[基礎・基本]
目標値				60%	75%	70%	60%
実施後数値							

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校78.5%, 県72.4%)

領域別平均通過率



領域別平均通過率



本年度の結果について

○全体的な傾向 (タイプ I・II の状況, 良い領域はどこか) について  
英語の結果において、タイプ I は 79.5%, タイプ II は 72.7% の通過率となっている。この結果から、基礎的・基本的な内容 (タイプ I) については概ね定着が図られていると考えられる。

○昨年度の課題への取組の成果 (あるいは課題)  
昨年度は、読むこと・書くこと【外国語表現の能力】の「情報を基に、それに関連する質問を考え、英文を書く問題」、「情報を基にした概要や要点の理解の問題」に課題が見られた。そのため、教科書を黙読し、ポイントを押さえながら読ませるトレーニングを行った。その結果タイプ II の同項目はそれぞれ、42.1%、15.3% 上がった。

重点課題

【課題 1】

タイプ II (読むこと・書くこと) 根拠となる英文を読みとれているか問う問題に課題がある。英文だけで判断し、関連するグラフを読みとれていない生徒がいた。(58.2%)

【課題 2】

タイプ I (話すこと) 自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるよう話せているか問う問題に課題がある。問いに対して、その場で正しい文法を使って答えられない生徒がいた。(59%)

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題 1】

教科書本文を読み取る際に、英文だけでなく、表やグラフからも根拠や答えを見つけられるような発問を行う。英文に関連のある表やグラフのデータを読み取る問題を適宜行い、始めは記号問題や穴埋問題にするなど、ステップで行う。

【課題 2】

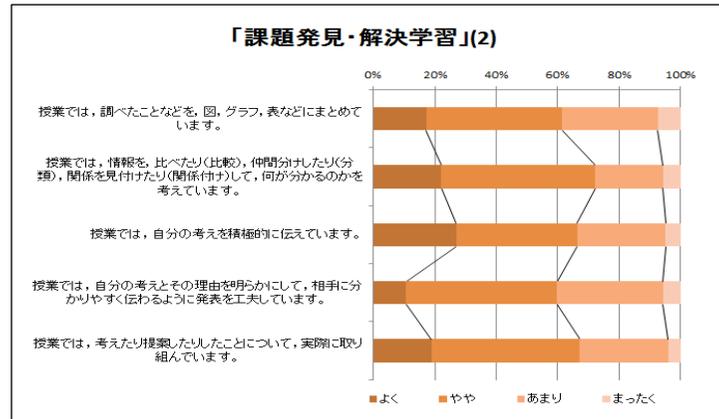
会話表現の活動を行い、例文を繰り返し読み、文法を定着させる。その後自分自身のことを表現できるよう例文の一部をかえて何回も繰り返し練習を行う。その際、ペアを変えたり、例文の一部を変えたりすることで、即興性や応用力を身に付ける工夫を行う。

【課題 1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2 学年 学期末試験			1・2 学年 学期末試験	
目標値			65%			70%	
実施後数値							

【課題 2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法			1・2 学年 学期末試験			1・2 学年 学期末試験	
目標値			65%			70%	
実施後数値							

# 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

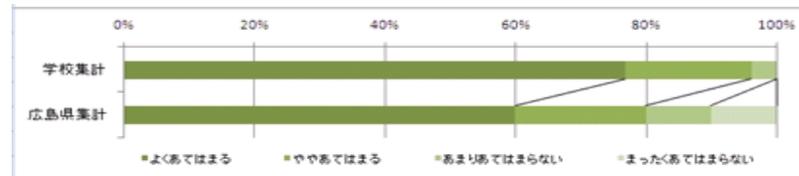
## (1) 生活・学習



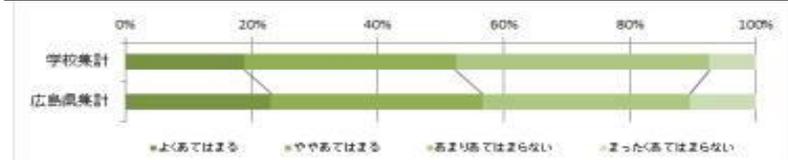
生徒の回答についての課題 (現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
「授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手にわかりやすく伝わるように発表を工夫しています。」の肯定的な回答が 59.9%と県平均より低い。授業においては、答えのみの発言が多く、その理由や根拠を積極的に発言できていないことに課題がある。	答えだけを問う質問ではなく、生徒の思考とその過程を踏まえた発問を行う。また、答えやその根拠となる理由を記述させることで、自分の考えを筋道立てて説明できるようにしていく。	2	70.0%	生徒アンケート調査	2月		

## (2) 教科

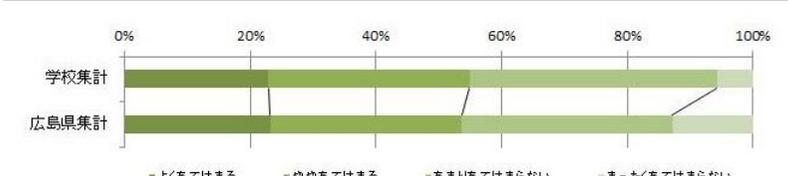
国語の授業では、伝えたいことの内容をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いています。



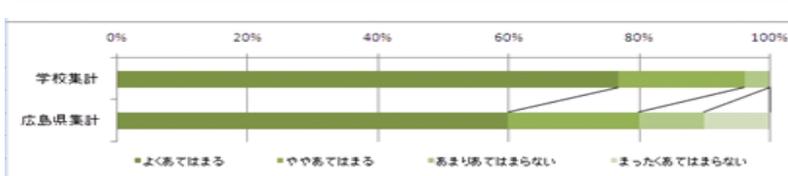
数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。



理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。



英語の授業では、分からない単語や熟語や自分が使いたい単語や熟語は、辞書を使って調べています。



	生徒の回答についての課題 (現状値)	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	「国語の授業では、伝えたいことの内容をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いています。」に対して、肯定的な回答が 71.3%と県平均よりも低い。	伝えたいことの内容をはっきりさせた上で文章を書く場面を、授業の中で定期的に設定する。また、文の組み立てについて反復練習をすることで定着を図る。	2	80.0%	生徒アンケート調査	2月		
数学	「数学の授業では、解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています。」に対して、肯定的な回答が 52.5%と低い。	ペアやグループで、説明し合わせる場面では、まず自分の解き方や考え方をノートに書かせ、書けない生徒には支援により自信を持ってグループ活動に参加できるようにする。	1 2	65.0%	生徒アンケート調査	2月		
理科	「理科の授業では、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしています。」と肯定的に答えた生徒が 54.9%と低い。	基礎的な内容をしっかりと捉えさせることで、自分の考えをノートに記述できるようにし、説明や発表に自信を持たせる。	1 2	60.0%	生徒アンケート調査	2月		
英語	「英語の授業では、分からない単語や熟語や自分が使いたい単語や熟語は、辞書を使って調べています。」に対して肯定的な回答が 61.3%と低い。	書く活動の際に、辞書を使う機会を設定する。また、英文を読み取る際にも、教師側が意図を持って語彙を増やすという目的で単語を調べさせる機会を作る。	2	70.0%	生徒アンケート調査	2月		